

〔雍州府志^{土六}〕唐芥子 所々有之、稻荷邊所種爲佳、唐芥子中華所謂番椒是也、

〔甲子夜話^{五十四}〕久能山ノ麓ニ、八年枯ズ、每歲花咲キ實ナル唐ガラシアリシニ、去年^{五年}○文政カ大

風ニテ吹キ折リテ絶タリト、併シ六年ニナル者今ニ存セリト云、コレ暖國ユヘナリ、右ハ駿河ニ
限ル由、又蕃椒ハ久能ノ名物トテ、日光漬^四ノヤウ成ル卷キ漬ヲ、紫蘇ニ染テ大分造リ出ス、

〔日光山志^四〕日光諸處の名産

飲食類 漬蕃椒

〔風俗文選序^五〕番椒序

野坡

とうがらしの名を、南蠻がらしといへるは、かれが治世、南蠻にて久しかりしゆへにや、未詳、酸醬
子、天覗き、空見^ヤ八なりなどいへるは、おのがかたちを好める人々の、翫びて付たるなるべし、皆や
さしからのぬ名目は、汝が生得のふつ、かなれば、天資自然の理、さらくうらむべからず、かれが
愛をうくるや、石臺にのせられて、竹椽の端のかたにあるは、上々の仕合なり、ともすれば、挿鉢の
われ、底ぬけ釣瓶に培れて、やねのはづれ、二階のつま、物ほしの日陰をたのめるなど、あやうく見
え侍るを、朝貌のはかなきたぐひには、誰もくおもはず、大かたは、かづら髭つり髭の益雄にか
しづかれて、貪乏樽の口をうつすみさかなとなり、不食無菜の時、不圖取出され、おほくは、奴僕豆
腐の比、紅葉の色を見するを、榮花の最上とせり、かくはいへど、ある人北野詣の歸るさに、道の邊
の小童に、こがね一兩くれて、汝が青々とひとつみのりしを、所望せし事ありといへば、いやしめ
らるべきにもあらず、しかじ今は其人々も此世をさりつれば、いよく愛をも頼むべからず、か
らき目も見すべからずと、小序をしかいふ、

石臺を終に根こぎや番椒

〔草木育種^下〕馬鈴薯^{マカハラム}薯^{マカ}薯^{ハラム}府志^松 せう。ろ。い。も。又。る。ぞ。い。も。又。お。ら。ん。だ。い。も。と。も。云。蠻。名。ガ。イ。ト。ト。エ。利。亞。墨。

馬鈴薯
名稱